

2015(平成27)年9月16日

館外講座だより23



第 36 回目のバスツアーは、2012 年 10 月に開催した特別展「東京低地災害史」において、津波被害を語る「忘れ時の時計」をお借りした旭市飯岡へ 3 回目の訪問となりました。2013 年 5 月は、津波の災害教訓を、昨年 6 月は建設途上の防潮堤や完成した避難タワーに昇りました。そして今回は、仮設住宅体験や旧飯岡荘内に開館した防災資料館で、当時のようすや飯岡の現状をお話いただきました。昼食後は崖を下り、波音を聞きながら屏風ヶ浦ジオサイトを見学しました。現地を知ることで私たちができること、伝えられることを考えていきましょう。

◆飯岡海岸・防潮堤・仮設住宅・旭市防災資料館・語り部との交流

みなさんのアンケートから 女性○、男性●、(参加回数/飯岡)です。

- 光と風、旭市防災の皆さん、どの方もとてもいいで親切でわかりやすく説明、接してくれて感謝しています。気分さわやかに楽しい災害教訓バスツアーとなりました。3 回目の飯岡訪問でしたが、新しい発見も多々あり有意義なものでした。一つは、とに角早く高い所へ避難する、一つは戻らない等々を改めて確認しました(10 回目、飯岡 3 回目)
- 海岸道路沿いの町並みに、櫛の歯が欠けたような空地がまだ多く見られたのは切なかった。仮設住宅はとても圧迫感があったので、住みやすさを改良してほしい(初参加)
- 防潮堤、ここでもかさ上げなんですね。宮脇昭さん達がすすめているガレキに植林をして防潮堤をつくる方が良いように思うのですが。仮設住宅はすいぶんせまいところに押し込められていたんですね。東北ではつらかったらうなと思いました(初参加)
- 仮設住宅、一番大きな間取りとはいえ、家族 4~5 人で住むにはせまい。そして見た目ではわからなかったが、部屋の上部下部に、ふつうの建物ならあるはずの空気あなが小さすぎて、居住空気の対流がなく、室内環境劣悪とのこと。実際に中に入れて見えないところの説明もきけてよかった(3 回目、飯岡初参加)
- 防災士の高橋さんと 2 年振りの再会です。津波の起きた出来事が信じがたい程、写真の現実と何をすべきかのもどかしさの苦労が伝わって来ました(10 回目、飯岡 2 回目)



「いいおか津波を語り継ぐ会」高橋進一さん



旭市防災資料館にて船倉武夫さんのお話を聞く



仮設住宅 実際になかに入ってみました、



災害を 学びゆくバス 飯岡へ
 キジバトも 巣づくりをする 津波跡
 飯岡の 津波の田に咲く 彼岸花
 刈りあとの 田中に白き さぎの群

建設の進む防潮堤

- 21 分のビデオ、展示されている写真によって飯岡を襲った津波のすごさ(7.8 m)を実感しました。語り部(高橋さん)のお話からは、災害に対する心構えを教えてくださいました。まだ自宅からの避難場所も確認していませんでしたので(初参加)

◆刑部岬展望館（昼食）・屏風ヶ浦ジオサイト・飯岡港

○復興弁当、とてもおいしかったです。一品一品がおいしかった。季節によってメニューが変わりますか？ イベントなどのとき、東京で売っていただけなら、私は買いたいです（3 回目、飯岡初参加）

●こんな断崖があるんですね。荒々しい波でした。その隣にある港。思ったよりも水はきれいと感じました（初参加）

○何百年何十年という時の流れが、景観を大きく変えてしまうとのこと。そのダイナミックさを思いおこしました。自分の地所が、海底になってしまうなんて。今回の東北大震災でもそれで苦しんでいる人もいるでしょうに（3 回目、飯岡初参加）



●荒波が作り出した海食崖、断崖絶壁も年々浸食されて、陸地が後退、過去 100 年で 100M...、自然の破壊力はすごいと思いました。港の防潮堤を乗り越えた津波...、まだこわれたままの漁船があったので再認識しました（10 回目、飯岡 3 回目）

○鎌倉時代には現在より 6 km先に海岸線があったとか。海食崖→飯岡石・・・、海脚地形との関係は？（20 回目、飯岡 3 回目）

○海岸に出て廻りを見ながらの説明は楽しかった。思わず童心に（23 回目、飯岡 3 回目）

●護岸のために奇岩が緑化されてそのうち見られなくなるのは皮肉なことだと思った。自然の景観も一期一会だと教えられた気がした（初参加）

○飯岡港は漁船の数が非常に多く、漁業がさかんなのだと思います（初参加）

●がけの崩壊の様子が理解できた。鬼怒川からの漂流物が銚子港程の被害が無くよかった（10 回目、飯岡は 2 回目）

◆津波避難タワー

○タワーは 100 人位が定員で 50 m²の広さとお聞きしましたが、地方なので人口が少なく、これでもいいのかな？（初参加）

●風当たりも強く、屋根、水も無く、立ったまま長時間の滞在はむづかしく、被災者を減らす為にどうすれば良いかは課題と思います（2 回目）

○雨に昇った時とちがい、軽々と昇れました。タワーの存在で心が少し安心出来ればよいかも知れない（7 回目、飯岡 3 回目）

○小高い場所がない所では、安心できるタワーだと思う。ふきさらし状態なので、季節・時間・天候など、短時間の避難になるだろう（20 回目、飯岡 3 回目）



昨年に引き続き旭市役所 江戸義一さん



旭市役所 高橋利典さんと車椅子体験

●災害後の発想でしょうが、日本では多く作っても良いのでしょうか（3 回目、飯岡初参加）

○決して無用の長物ではありません！ 景観よりタワーの見える安心感の方が住民や外から来た者にも必要でしょう！ 高い建物や逃げ場がない地域には必要ですよ（11 回目、初参加）

●とりあえずの避難には役立つが、長時間ここにいるのは難しい印象をもちました（特に高齢者には）（初参加）

○次の津波は今日か 200 年後かわからないが、リスクを知ったからには、それに立ち向かう。そうやって人々はまちづくりをくり返してきたのだろうなと思いました。潮風の経年劣化との闘い。そして人々の忘却とのたかかきも、やがて始まるのかもしれないと思いつつ、自身が少し忘れかけているのにも気づきました（3 回目、飯岡初参加）

◆その他・自由欄

- 飯岡出身の詩人、高橋順子さんに3.11の時の飯岡のはなしをうかがっていたので、一度たずねたいと思っていました。ようやく実現することができ、ありがたい機会でした（初参加）
- 語り部の想定外を想定せよ一、忘れないようにしたい言葉でした。しかし、「海が見えない町づくり」をすすめて、津波からの危機意識をもちつづけて、矛盾しているような気がするのです（3回目、飯岡初参加）
- 地元研究者、活動家、市民等の人たちとの語り合いがたのしい。土地の人たちの思いに触れ、自分たちの住む場所の防災に目を向けたい（11回目、初参加）
- 復興・復旧を急ぐなか、思うにまかせぬ4年半だったのではないかと思います。飯岡漁港の護岸の設置がその後の災害に直結できなかったことが悔やまれました。皆さんの復興への思いを少しでも応援できるよう、これからも心して行きたいと思った旅でした（23回目、飯岡3回目）
- 現実的なくみがあるツアーでした。まず行って見て感じ取る。ただ観念的な防災学習でなく、震災を忘れずに関心を持ち続けること。次回も行きます（11回目、初参加）
- これからいろいろな切り口から飯岡を訪ねるツアーを続けてほしい。そのなかで復興過程がわかるようなくみがあるとよいのではないだろうか（初参加）
- メディアにはほとんどのらない飯岡へツアーに3回参加でき、復興への取り組みの経過を体感できました。この貴重な体験を自分の教科書として、これから学んで行動していきたい（20回目、飯岡3回目）
- 飯岡石や砂鉄のエピソードに興味深かった（初参加）
- あさび〜のワッペンシール、どうしたら手に入るの？（7回目、飯岡3回目）

■2016. 2. 13 環境学講座

「津波被災地飯岡の5年間のあゆみから学ぶこと」をテーマに、飯岡で毎回ご案内をいただいている船倉武夫先生（千葉科学大学教授）



にお話をいただきました。避難時に必要な水の効率的な運搬方法など、実践面の防災・減災を学びました。



I am あさび〜

物言わぬ 針が示し 悲しみを のちのちまでも 語り伝えん

秋の海 白い防波堤 ^{うらさび} 心淋し

被災地に けなげに咲き 彼岸花



何に語る 寄せくる波と 屏風ヶ浦

TOUR DATA

時間	経過	時間
7:35	博物館出発	
7:50	四ツ木IC	
8:05	葛西JCT	
8:35	酒々井PA	12分
9:06	大栄IC	
10:05	旭市防災資料館ほか	90分
12:05	刑部ヶ崎展望館	90分
13:25	ジオサイト・飯岡港	15分
14:35	津波避難タワー	40分
16:40	成田IC	
17:05	湾岸幕張PA	15分
18:14	四ツ木IC	
18:35	博物館着	
東京バスセンター(株):フェニックス号		
ドライバー:佐藤 広幸 さん		
走行距離: 249 km		
応募27名、当日参加28名(倍率0.5倍)		
参加費4300円		

ツアー後記

大変ながらくお待たせいたしました。2012年秋の特別展「東京低地災害史」時の14号に匹敵する大幅な遅れで、ようやく通信をお届けいたします。3度目の飯岡訪問。今回は終日飯岡で、ゆったりと過ごすことができました。屏風ヶ浦を背に、ごうごうとした波の音を聞きながら、自然の恵みと脅威を感じました。旭市役所・NPO 光と風のみなさま、ご案内をいただきありがとうございます。まもなくあの日、3月11日迎えます。東日本大震災から5年。記憶を風化させず、また来年飯岡でおめにかかりましょう！

担当学芸員 橋本直子
博物館専門調査員 勝田真幸



葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101 <http://www.city.katsushika.lg.jp/museum/>